

藤沢にある浮世絵のひみつがまるわかり！ 今回のテーマは歌川広重の「人物東海道」！

うきよえ 浮世絵 しんぶん

藤沢市 藤澤 浮世絵館

2024年 3月 第22号

有名な浮世絵師、歌川広重が描いた藤沢の絵だよ。雪がふっついていて寒そう！ 遊行寺橋の前を歩く女の人が二人大きく描かれているよ。この絵は「人物東海道」っていう東海道五十三次を描いた浮世絵シリーズの一枚なんだ。

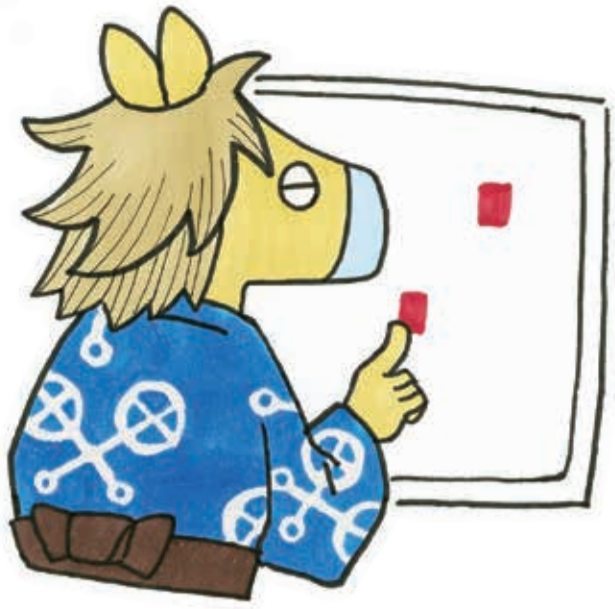


うたがわひろしげ 歌川広重 「五十三次 藤沢」

歌川広重は名所絵（風景を描いた浮世絵）がとっても得意な浮世絵師で、東海道五十三次の浮世絵シリーズをたくさん描いたんだ。みんな「東海道五十三次」や「東海道」みたいに似たようなタイトルだったから、今はわかりやすいようにシリーズごとの通称（ニックネーム）で呼ばれることが多いよ。この絵のシリーズも本当のタイトルは「五十三次」なんだけど、人が大きく描かれていることが特徴だから、通称「人物東海道」って呼ばれているよ。



「人物東海道」の藤沢は雪がふっついている珍しい光景だね。



ものがああるよ!
このページでは
ほかの東海道五十
三次シリーズを紹
介するね。
「人物東海道」のほ
かにもたくさん通
称で呼ばれている
ものがあるよ!
広重が描いた東
海道五十三次は、

ひろしげ とうかいどう ごじゅうさんつぎ つうしょう 広重による「東海道五十三次」の通称



うたがわひろしげ とうかいどう ごじゅうさんつぎのうち ふじさわ
歌川広重「東海道五拾三次之内 藤沢」

つうしょう ほえい どうばん
通称：保永堂版

せいしきめい とうかいどう ごじゅうさんつぎのうち
正式名：「東海道五拾三次之内」

りゆう はんもと うきよ え しゅっぱん かい
理由：このシリーズの版元（浮世絵を出版する会
社みたいなところ）が保永堂という名前だ
から。



うたがわひろしげ とうかいどう ごじゅうさんつぎ ふじさわ
歌川広重「東海道五拾三次 藤沢」

つうしょう きょうか いり とうかいどう
通称：狂歌入東海道

せいしきめい とうかいどう ごじゅうさんつぎ
正式名：「東海道五拾三次」

りゆう え なか きょうか たんか
理由：絵の中に狂歌（おもしろい短歌）
が書かれているから。

おなじ藤沢の絵でも
シリーズによって
ぜんぜん違うね。



うたがわひろしげ とうかいどう ごじゅうさんず え しち ふじさわ
歌川広重「東海道五十三回会 七 藤沢」

つうしょう び じん とうかいどう
通称：美人東海道

せいしきめい とうかいどう ごじゅうさんず え
正式名：「東海道五十三回会」

りゆう え なか おんな ひと おお えが
理由：絵の中に女の人が大きく描か
れているから。



いろいろなひとえが 色々な人が描かれている「人物東海道」

歌川広重の「人物東海道」は、宿場ごとにその地域の人や旅人など色々な人が大きく描かれていて、見て楽しいシリーズだよ。ここでは「人物東海道」の作品を二枚紹介するね。

石薬師

石薬師（今の三重県鈴鹿市）という宿場には、武将の源頼朝が、平家追討の道中に武運を祈願して地面に刺した桜の枝から、芽が出て立派に成長したという伝説が残っているよ。この桜は「石薬師の蒲桜」と呼ばれているんだ。

桜の木のそばには女の人が二人描かれているよ。立っている人が座っている女の人の髪を結んであげているね。有名な桜が描かれているけど、女の人が一番目立っていて、人物東海道らしく人間が主役の絵だね!



うたがわひろしげ 歌川広重 「五十三次 石薬師」

京



うたがわひろしげ 歌川広重 「五十三次 京三條橋」

京（今の京都）にある三条大橋を渡る人々を描いているよ。着物を頭からかぶった身分の高そうな女の人们たち、茶筌（抹茶をたてる道具）をたくさん刺した竹の棒を持った茶筌売り、頭に薪をのせて売っている歩く大原女と呼ばれていた女の人が大きく描かれているね。みんな京でよく見かけられた人たちなんだよ。

ほかの東海道シリーズでは、広重は三条大橋を風景のメインとして描いたから、人物はもっと小さいんだ。でも、人物東海道は人を中心に描くことで、京ならではの様子がよくわかる絵になっているね。